

熊本市南区におけるまちづくりに対する住民意見の分析

熊本大学工学部 学生会員 ○増永和弘

熊本大学政創研 正会員 田中尚人
熊本大学政創研 正会員 岩田圭佑

1. 背景と目的

去年4月、熊本市は政令指定都市に移行し、5つの区が設置された。南区では、6地域において住民を対象としたアンケートやワークショップなどを行い、その意見を反映して、まちづくりの目標と進行方法を示した振興ビジョンを策定しようとしている。

本研究では、熊本市南区を対象として、地域ごとのまちづくりに対する考え方の違いを把握することを目的とする。そのため2章で6地域の特性を示し、3章でアンケートにみる住民意見分析、4章でワークショップにみる住民意見分析を地域別に行う。

2. 南区内6地域の特性

研究対象地である熊本市南区内6地域の特性を示す。

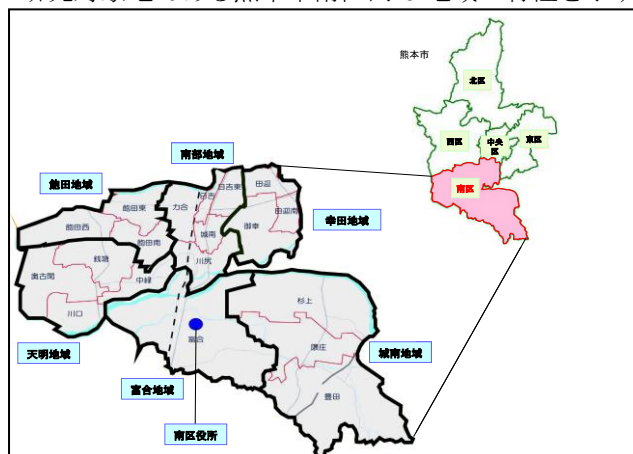


図-1 熊本市南区6地域

表-1 南区地域特性

南区地域特性	
南部地域	工業地域、第1種住居地域、第1種中高層住居専用地域が広がる地域であるが、史跡が多く残っており、伝統工芸が盛んな地域である。また、長い歴史のある祭りがあり、スポーツ施設や公共交通も充実しているという特徴があげられる。
飽田地域	農業が盛んで高齢者が多い地域であるが、近くに市場や運動広場があるなどオープンスペースが多い。
幸田地域	中央区に近いことから近年住宅地が増え、新住民が多くなっている。また、商業施設が多いことが特徴としてあげられる。
富合地域	人口密度が低く高齢者が多いが、南区役所があることで南区の中心となっておりまちづくりが行われている地域である。また、伝統的な祭りや近年始まった祭りが行われており、土地自体も豊富なのでこれから住宅地等が増えると予想される地域である。
天明地域	農漁業が盛んであるが、少子高齢化が問題としてあげられるため後継者不足となっているのが現状である。また、伝統的な祭りの伝承も危ういなどの問題も抱えている地域である。
城南地域	平成22年に熊本市と合併した地域で、南区の中で最も広い面積である。市街地がある中で、史跡や歴史民族資料館などがあり、地域活動が活発で歴史深い地域である。

3. アンケートにみる住民意見分析

南区民を対象としたアンケートによる意見を分析し、地域別における考え方の違いを考察する。

3.1 アンケートによる調査内容

アンケート内容は図-2の通りである。

●回答者のことについて ●南区について	
Q1 性別	問1 南区の特徴や魅力
Q2 年齢	問2 南区の課題
Q3 職業	問3 南区の将来像
Q4 家族構成	問4 現在住んでいる場所は住みやすいか
Q5 現在の住居地	問5 これからも住み続けたいか
Q6 居住年数	問6 南区のたからものは何か
	問7 「近所付き合い」に対する考え方
	問8 「近所付き合い」の現状
	問9 地域の活動で、今参加しているもの
	問10 今後、どのような活動に参加しようと思うか
	問11 活発な地域活動を続けていくために必要なこと
	問12 南区についての意見・提案(自由記述)

図-2 南区まちづくりアンケート内容

3.2 地域別分析

上記のアンケート内容を6地域ごとに集計し、それぞれの地域の回答傾向を分析した。その結果地域ごとに、南区の魅力、課題、将来像、近所付き合いなどの考え方に違いが見られた。

3.3 クロス集計

アンケート結果に対してクロス集計を地域別に行った。図-3は、問1と問4「現在住んでいる場所が住みやすい」と答えた人のクロス集計である。各地域で多く得られた意見を表-2に示す。

表-2 クロス集計において多く得られた意見

クロス集計において多く得られた意見	
南部	スポーツ施設・交通利便性が高いまち・歴史的観光資源
飽田	スポーツ施設・農水産物・伝統文化
幸田	商業施設・農水産物・スポーツ施設
富合	農水産物・商業施設・交通利便性が高い
天明	農水産物・川や海・スポーツ施設
城南	公園緑地・農水産物・歴史的観光資源の割合が高い

3.4 アンケート分析まとめ

2章の地域特性とアンケート分析を比較してまとめると、南区の上部に位置し、中央区に近い幸田・南部は年少率が高く、老齢率は低い。この2地域は、近所付き合いに対して挨拶程度しかできていないと答えた割合が高い。しかし、中央区から離れ、農村地帯が広がり、老齢率が高く、年少率が低い天明や富合では積極的に近所付き合いができていないと答えた割合が高いことが分かった。またクロス集計より、現在住んでいる場所が住みやすいと考えている人は、各地域の特性に応じた特徴や魅力を挙げていることが分かった。他項目においても同様なクロス集計を行い、地域ごとでの住民意見傾向の違いを示すことができた。

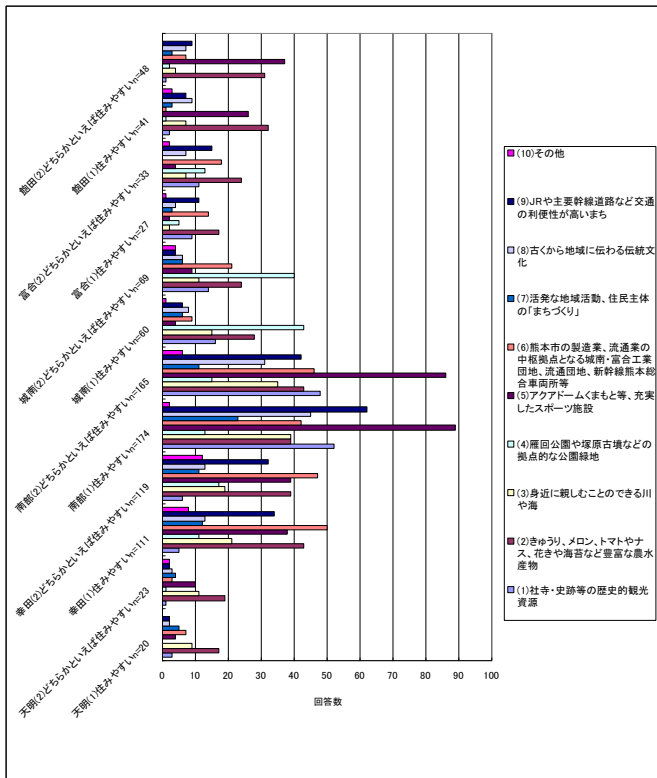


図-3 住みやすいと考える人が持つ魅力

4. ワークショップにみる住民意見分析

住民によるアンケート結果と南区管内事業や農協・漁協などの地域代表者や行政で行われる検討会により7つのテーマが設定された。それを元に、6地域で行われたワークショップでの住民意見を分析する。

4.1 ワークショップ内容

歴史・文化・交流、食と農・漁業、健康、自然・環境、地域のつながり、福祉・子育て、防災・防犯の7つのテーマにおいて、地域住民によるワークショップが行われた。ワークショップは、1テーブル5人程度で、①テーマについての魅力や課題、②将来像や課題解決策のアイデア出し、③ワークショップの振り返り・まとめという流れで行われた。写真-1、2はワークショップにおいての成果物である。また、参加者人数と各地域で出た意見数(ポストイットの数)を表-3に示す(富合で行われた地域のつながりと食と農・漁業の2つのテーマに関しては、人数が多いため2テーブル用意された)。



写真-1 飽田(福祉・子育て)



写真-2 天明(防災・防犯)

表-3 ワークショップ参加者人数・意見数

	南部(35名)	飽田(24名)	幸田(33名)	富合(44名)	天明(41名)	城南(27名)	合計
防災・防犯	42	43	90	65	82	61	383
地域のつながり	39	25	33	※78, 54	72	58	227
健康	43	33	54	81	57	78	346
歴史・文化・交流	49	43	101	61	90	83	427
福祉・子育て	48	71	63	80	51	63	376
食と農・漁業	34	38	50	※61, 60	92	66	280
自然・環境	33	47	45	61	65	41	292
合計	288	300	436	348	509	450	2331

※2テーブルで行った

4.2 テーマ別分析

今回のワークショップは元々設定された7つのテーマに則して意見交換が行われたため、そのテーマに応じた意見しか見られなかった。そのためテーマ別での住民意見の傾向に違いは見受けられなかった。

4.3 地域別分析

ワークショップでの意見を地域別に分析すると、住民意見の傾向に違いがあることが分かった。結果は表-4に示す。

表-4 ワークショップ住民意見傾向

	ワークショップ住民意見傾向
南部	歴史・自然を活かした祭りの活性化、歴史を伝える場づくり、特産品、史跡等を利用した観光案内に関する意見が多い
飽田	世代間で集まれるオープンスペースを活かしたイベントや教室・場づくり、地産地消、環境整備に関する意見が多い
幸田	若い世代を中心として物事を行うことや子供に視点を置いた意見、街灯などの子供からお年寄りまでが安全に過ごせる環境整備に関する意見が多い
富合	PTA、学校との地域のつながり、障がい者福祉などの組織づくりや行政と住民との連携に関する意見が多い
天明	農業・自然を活かしたイベントや少子高齢化・後継者問題、避難指示等の情報提供に関する意見が多い
城南	子供への歴史や自然などの教育、観光客を増やすための環境整備、新住民と旧住民との交流に関する意見が多い

4.4 意見分析まとめ

南部は有名な祭りや史跡があることから観光客に目を向けており、城南も観光客に目を向けているが地域内外の交流を深める考えが強い。飽田・天明は農業が盛んなため地産地消を強く押している点は共通だが、天明は少子高齢化・後継者問題が深刻化している。富合はPTA、学校、障がい者福祉関係の内容においてもまちづくりの中心となっており、行政との連携性を求める声が多い。

5. まとめ

熊本市南区において6地域の特性を示し、地域ごとにアンケートとワークショップにみる住民意見の分析を行った。詳細に関しては分析中である。

謝辞

永目工嗣区長をはじめ、熊本市南区役所の皆様、南区民の皆様にはアンケートやワークショップに関するデータ提供及び現地調査、ヒアリング等にご協力頂き、大変お世話になりました。記して感謝の意を表します。